会　　議　　録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 第1回戸田市都市マスタープラン推進委員会 |
| 開催日時 | 令和6年7月8日(月)　10:00～12:00 |
| 開催場所 | 戸田市役所　5階　501会議室 |
| 出席者氏名  （委員） | 山碕康之（委員長・都市整備部次長）、熊木智洋（副委員長・まちづくり区画整理室長）、雨宮博子（危機管理防災課長）、清水明（企画財政部次長兼資産マネジメント推進室長）、細井高行（環境経済部次長兼環境課長）、野崎実治（経済戦略室長）、梶山浩（教育委員会事務局参事）、東口俊博（水安全部次長兼水安全部総務課長） |
| 欠席者氏名  （委員） | ― |
| 事 務 局 | 【戸田市　都市整備部　都市計画課】  今泉課長、堀江主任、笠原技師、早間主事補  【セントラルコンサルタント株式会社】  小坂、中村、宝満 |
| 内　　　容 | （1）第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について  （2）その他 |
| 会議結果 | 別紙（会議の経過）のとおり |
| 会議の経過 | 別紙（会議の経過）のとおり |
| 会議資料 | ・次第  ・資料1　戸田市都市マスタープラン推進委員会設置要綱  ・資料2　戸田市都市マスタープラン見直し検討委員会要綱  ・資料3　戸田市都市マスタープラン推進委員会委員名簿  ・資料4　戸田市都市マスタープラン推進委員会の役割について  ・資料5　第3次戸田市都市マスタープラン  全体構想（現状と課題）について  ・資料6　第3次戸田市都市マスタープラン  全体構想（資料編）について |
| 議事録確定 | 委員長　山碕康之 |

(会議の経過)

| 発言者 | 議題・発言内容・決定事項 |
| --- | --- |
| 事務局  委員長  事務局  委員長  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  事務局  事務局  委員  事務局  委員  委員  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員長  委員  事務局  委員  事務局  委員長  事務局  委員  事務局  委員  事務局  委員  委員長  事務局  事務局  委員長  事務局  事務局 | 1　開会  （事務局開会挨拶）  （資料及び議題の確認）  2　委員長挨拶  （山碕委員長挨拶）  3　議題  （1）第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について  それでは、以後は私から議事の進行を務めさせていただく。  議題（1）「第3次戸田市都市マスタープランの現状と課題について」を事務局より説明いただく。  （資料4に基づき、事務局より説明）  推進委員会の上位の組織はあるか。ここで決定したことが決まりなのか。  また、推進委員会と見直し検討委員会を同時にする事は検討していないのか。  本推進委員会で議論した内容を、7月24日の見直し検討委員会で議論し、議論を重ねていく。来年の1月から2月にかけて、地域別懇談会の開催を考えている。最終的にはパブリックコメントを実施した後に、都市計画審議会へ諮問し、承認をいただく流れとなる。庁議はなく、都市計画審議会が上位となる。  部長職の会議には諮らないのか。  かからない。推進委員会で素案を検討し、見直し検討委員会で案として決定した事項が都市計画審議会に上がる。  部長職には庁議で報告するのか。  マスタープランの骨子を整理した段階で素案を中間報告として庁議で説明するか、照会形式で庁内に内容を確認いただくか検討する。  立地適正化計画が上位となっているが、私の認識では都市マスタープランが一番上位と理解している。関連性を説明いただきたい。  資料説明に誤りがあった。立地適正化計画は都市マスタープランの一部で、関連計画である。  「都市計画マスタープラン」ではなく、「都市マスタープラン」なのか。  一般的には「都市計画マスタープラン」と呼ばれているが、戸田市の計画上の名称が「戸田市都市マスタープラン」となっている。説明は「都市マスタープラン」で統一させる。  立地適正化計画は上位関連計画との記載になっているが関連計画ではないのか。  厳密には、上位及び関連計画という表現が正しい。あくまで、都市マスタープランの一部に含まれるが、ここでは関連計画の一部として整理する。  住民意向調査は令和4年度で間違いないか。  間違いない。  元々、都市マスタープランは令和5、6年度の2か年で改定を考えており、その前年度の令和4年度に住民意向調査を実施した経緯がある。その後、総合振興計画の方針に合わせて改定を検討する事となり、令和6、7年度での策定となった。  （資料5に基づき、事務局より説明）  資料5の1pの第1章1に、都市マスタープランの改定とあるが、今回は第3次都市マスタープランの策定ではないか。  ご指摘のとおりである。平成24年に第2次都市マスタープランを策定して平成31年に立地適正化計画との整合性を図るために第2次都市マスタープランを改定したので表現が残ってしまった。策定に統一する。  13pの(2)産業に係る現状及び課題で、印刷関連、食料品製造業は昔から多いが、最近は物流倉庫の方が多く感じている。根拠に基づいた表現なのか。  今はデータを持ち合わせていないが、対産業では倉庫業が多いと感じている。SDGs未来都市選定のための基本計画策定時に、戸田市の産業の特性を確認したが、もし相違があるなら修正していただきたい。  内容を改め表記を修正していただきたい。  事務局から補足だが、資料編12pの図1-19で、上位が印刷業になっており、これを根拠に説明した。資料が2020年のものなので、「SDGs未来都市選定のための基本計画」の記載内容を確認する。  印刷業の構成比が高いという判断は、従業員数で判断しているのか。  従業員数である。  倉庫というカテゴライズが各産業に分散していると考えられる。  いただいた情報・ご意見を元に事務局で改めて表現をどうするか事務局にて精査すること。  戸田市では、2008年を起点として総人口が約20％増加しているが、0～9歳の人口は約7％減少している。一方、外国人住民は約2倍増加しており、総人口の約6％弱が外国人住民である。人口増加を外国人に頼っている部分があり、外国をルーツとする方の人口変動を都市マスタープランに加味する必要はないか。  データとして、市内東部の小学校では約2割が外国籍の子供である。逆に、日本人住民は2016年以降出生率が低下しており、約30％減少している。まちづくりの視点でも、外国籍住民向けの施策を考えていかなければならない時代ではないか。  また、転入・転出については、20歳から25歳の転入が最も多いが、この年齢層は3年から5年で約７割が転出する。高齢者の転入が多いのは施設入所ではないか。  高齢者の転入については、埼玉県は全国で3番目に高齢者施設の数が多いことが考えられる。  20歳から39歳の方々が定着できる施策を考えていかなくてはならない。  これまでは教室不足で、学校を増改築してきたが、出生率の低下等によりある程度の見込みもたってきた。  外国籍の転入を探り、検討する。今後の少子化防止策や、20～39歳の子育て世代が安心するまちづくりについても検討する。  ユニバーサルデザインに配慮したデザインもしっかり位置付けて取り入れていただきたい。  承知した。  転入率について、見直し検討委員会で使う資料はこれなのか。別の資料を使うのか。  今日使用した資料をベースにいただいたご意見を加味してまとめたものを資料にする予定である。  20代、30代前半の子育世代というところで、囲むのは30代前半までになっているが、85歳以上の転入率が多いというのであれば、85歳以上と比較して数値の大きい39歳まで拾うべきではないか。  ご指摘の通り39歳までを赤枠で含むようにする。  20歳から39歳が、一般的な人口推計の括りから見てもしっくりする。  20～39歳を赤枠で囲うように資料を修正すること。  また、総合振興計画との整合を図ること。  8月中旬に総合振興計画における人口推計を担当課より共有いただく予定である。事後報告になるが、次回の議題に追加情報で示し、人口推計が変わるようであれば、変更点も示す。  （2）その他  後日、共創企画課で各所属へ第5次総合振興計画について、ヒアリングシートを送付するが、各所属の回答の中で、都市マスタープランに関する意見の有無を都市計画課で確認し意見があれば、個別にヒアリングし、記載内容を調整するため、ご協力いただきたい。  その他意見、質問はあるか。なければ終了する。  次回開催は11月を予定している。詳細は決まり次第連絡する。  4　閉会  委員の皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございました。以上をもちまして、第1回戸田市都市マスタープラン推進委員会を閉会する。本日はどうもありがとうございました。  以上 |